



夜

一日の終わりの夜。
あなたはどんな時間を過ごしますか？

LIFESTYLE

修学旅行の夜

自分たちで計画を立てた修学旅行。
そして迎えた夜は……。 P2



REPORT

カメラマン美穂子の北星余市レポート

余市の自然で遊び、学ぶ。
塚原探検隊ってどんな講座？ P7



BOOK

一夜の 特別な体験

夜行列車に一度は乗りたいなあと思っているのですが、残念ながらいまだ経験したことはありません。この本には文字がなく、上野から金沢に向かう夜行列車で過ごす一夜が、絵だけで細かに描かれています。ホームから乗り込み、思い思いにそれぞれの時間を過ごし、夜になったら座席や

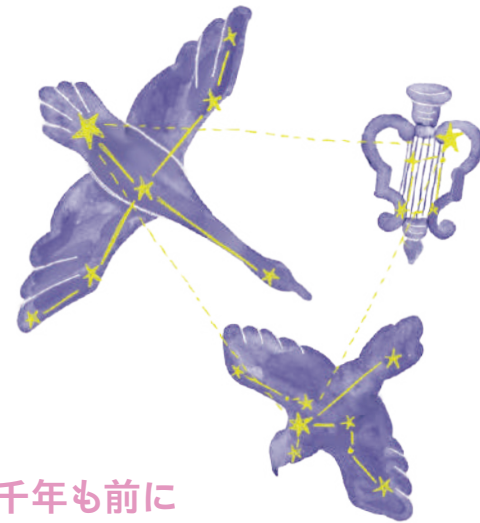
寝台車両で眠りにつきます。そして朝がやってきて、列車は目的の駅へ。列車を降りて、それぞれの目的地へ去っていきます。老若男女、本当にいろんな人たちが描かれていて、一人だったり、仕事仲間だったり、友達・恋人同士だったり、家族だったり……。じーっくり絵を見ていると、絵には描かれていない彼らの生活が見えてくるようです。今では珍しくなった夜行列車。全く関わりのない人たちが一つの列車という空間で一夜を過ごすのって、ちょっと不思議な感じ。きっといろんなドラマがあったのかもなあなんて、また憧れがつのるのでした。



やこうれっしゃ
西村繁男 さく
福音館書店 / ¥1,100



LETTER



何千年も前に 思いを寄せる

空を見て星座がわかるようになりたいなあ、とふと思い、数年前に購入したままあまり開けていなかった本書。百科というだけあって、春夏秋冬の星座が網羅されています。星座という概念は今から5,000年以上も前からあったそうです。昔の人たちは、夜、満点の星空を眺め、昔の伝説上の巨人や英雄たちの姿に見立てました。それらがギリシアの人々につながり、神話と結びつき、今の星座の原型が完成したのです。

夜、澄んだ空には、星の数だけ物語があります。そしてその物語を語り継いできた昔の人たちの歴史があります。星空は天然の昔話なのかもしれません。街中の喧騒から少し離れ、星座の本を片手に星空を眺めて、見つけた星座の物語を読んでみる。そんな時間はとても豊かですね。



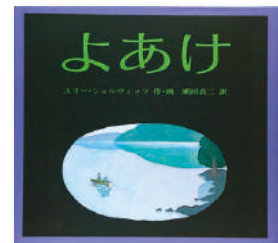
改訂新版
全天星座百科
藤井旭
河出書房新社 / ¥2,860

BOOK

静かで激しい 夜明け

真っ暗に静まり返った夜。思わず息をひそめるような静寂があります。しばらくすると、そよ風がひと吹き、さざなみが立ち、少しずついろん

な生き物の気配が。日が完全に昇る前におじいさんと孫はボートで湖へ、だんだんと空が白んでいき、眩しいくらい色あざやかな朝がやってきます。朝がやってくることは何かとてつもない奇跡のことのように思わせてくれる、そんな絵本です。



よあけ
ユリー・シュルヴィッツ作・画
瀬田貞二 訳
福音館書店 / ¥1,320



BOOK

本物の夜を 見たことが あるだろうか？

北極では、3カ月ほど太陽が昇らない極夜と呼ばれる闇の時期があります。「果てしなく夜が支配する世界を旅して、最初に昇る太陽を見たら、人間は一体何を感じるのだろうか」。この本は、それ



を知りたいと、80日間にもわたる死と隣り合わせの旅に出た探検家の記録です。月明かりだけを頼りに、星を見て進む方角を見極めます。トラブルに見舞われ、食料は尽き、幾度も命の危機に陥ります。文明の中で生きる私たちには想像しがたいですが、長い夜を過ごしたあとに見た「本物の太陽」は、彼の目にどう映ったのでしょうか。

たくさんのふしぎ2020年2月号
極夜の探検
角幡唯介文 / 山村浩二 絵
福音館書店 / 品切中



LIFESTYLE

修学旅行の夜

文・写真 田上善浩

修学旅行の夜は、格別な思い出の一つだ。私は公立中学校教師時代に合計10回ほど修学旅行を体験してきた。しかし、8年前に熊本市に開校したWING SCHOOLの修学旅行の夜は、また一味違う。

まず、修学旅行があるかどうか決まっていない(笑)。子ども達は「修学旅行に行くのかどうか」「行くとなった場合何日間行くのか」「どこへ行くのか」「どうやって行くのか」「そこで何をするのか」「どこに泊まるのか」「いくら費用がかかるか」などを全部自分たちで調べて考える。ある年の小学6年生は、京都・島

根・福岡が候補に上がった。それぞれ飛行機・新幹線・バスなど交通手段も調べる。かかる時間や費用も書き込む。多数決ではなく、あれこれ話し合い納得した上で決めていく。ちなみに、旅費は自分たちで稼ぐ。親の手出しはゼロだ。行き先は京都に決まった。しかし、お金が足りなかったら福岡にしようとなった。(実際、北海道スキーが広島スキーになった年もあった。)そこで、旅費を稼ぐためのマルシェを企画し、それぞれ得意分野で店を出す。個人でメルカリ販売で稼ぐ子もいる。講演会でスピーチをし、カンパを何万円も集めた強者もいた。全員で全員の旅費を稼ぐ。旅費どころかお小遣いまで稼ぎ出し、ドヤ顔で京都へ行った。

スタッフは引率というよりついていくだけ。清水寺を矢印で示す大きな看板があるのに気付かず、町内図？みたいなのを見て子ども達が悩んでいても教えない。間違ったバスに乗っても



一緒に乗っていく。いろいろやらかすが、それも大切な経験。過去一番のやらかしは、京都でホテルに行ったら「ご予約来月になっています」と言われた。大人になってこれをやると大問題だが、小学生はみんな大笑い。でも、やるたびに明らかに実践力が高まっていく。マルシェも、最初は「釣り銭がない！」などで騒いでいたレベルだったのが、素材の質も上がり料理の腕も上がりクオリティがどんどん上がっていく。全ては将来につながる経験の積み重ね。

そしてついに迎えた修学旅行の夜。次の6年生に引き継ぎたい10のことに、「やはり夜は早めに寝た方が次の日が楽」が入った(笑)。



田上善浩 | Yoshihiro Tanoue

WING SCHOOL校長。2018年熊本市にWING SCHOOLを開校。100人の小中学生が全国から集い「幸せな未来を築く力」をつける教育を楽しんでいる。教育界から新たな時代を築くために、日本全体の公教育改革を目指している。著書「幸せな未来を創るオルタナティブ教育/学校」

LIFESTYLE

三週間の教育実習

文・写真 水上建

私は教育実習を通して、生徒たちに対して自分は何ができるのかを考え続けた。実習が進むにつれ、クラスの雰囲気にも不満を持ち、心の中にくすぶりを抱えている生徒がいることを知った。そのときに思い出したのは高校時代に担任に言われた「自分一人ですることなんてたかが知れている」という言葉だった。だからこそ、不満を抱えている子を一人にせず、同じような思いを持つ仲間がいることを可視化し、彼らをつなげることにした。それがきっかけとなり、お互いが感じていることや考えていることを言い合える関係がクラスの中に少しずつ広がっていくのではないかと期待した。

三週間という短い期間では、不満を持つ子同士をつなげるところまでしかできなかった。その後の彼らの変化を見届けられなかったのが心残りだ。

私は大学では、人付き合いをあまりせず、本ばかり読んでいたが、教育実習を通して生徒と関わるのが非常に楽しくなっていた。正直「授業さえなければ、この準備時間を生徒との関わりに使えるのに」と思ったほどだ。もちろん授業をないがしろにしたわけではない。歴史の授業では、はじめか

ら「自分のやりたいことをやっていい」ということを保証してもらった。こんな学校はなかなかない。私は一年間大学を休学して沖縄に滞在し、体験的に学んできた。そのとき痛感したのは、「こんなに声を上げている人がいるのに、“本土”には届いていない」という現実だった。だからこそ、学んだことを人に伝え、沖縄の基地問題を“日本全体の問題”として考える機会を作りたいと考えた。授業では、日本と沖縄の関係を軸に近現代史を扱い、沖縄で噴出している問題の背景と経緯を伝えた。

一方で眠くなる授業も多かったと思うけれど、みんな耳を傾けてくれた。また改善点を指摘してくれたり模擬授業に参加してくれたりした子たちもいた。与えたものよりも、生徒たちとの関わりから与えられたものの方が圧倒的に多かったが、彼らに少しでも何か心に引っかかりを残せていたら嬉しい。

最後に、忙しい中で私を受け入れてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして温かく迎えてくれたクラスのみんな、本当にありがとうございました！



水上建 | Takeru Mizukami

54期生。修学旅行をきっかけに沖縄に関心を持ち、基地問題を学ぶために大学に進学。そんな私が24歳の現在、アクティブに韓国でワーホリ中！……のはずが、なぜか現地で主夫生活。ワーホリ主夫という謎の現在地、次の一步は自分でもわかりません！



LIFESTYLE

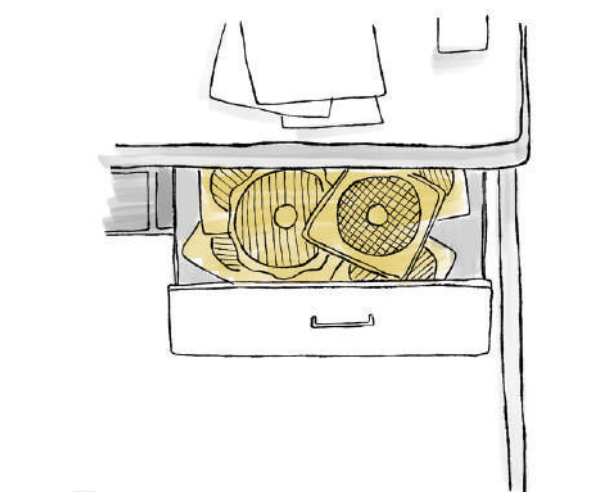
夜、日記をつける

文 小高梨乃
イラスト 瀬尾涼音

一日の終わりに、その日あった出来事や思ったことを日記に書いている。すぐ飽きると思っていた日記が続いているのは、学生の頃に好きだった「先生の机」を思い出したからだ。

先生の机の引き出しを開けたことがある。そこには、ケーキの底に敷かれている金色のプラスチック製トレーが大量に入っていた。机の中にそんなものがあるのかと驚いた。先生は、自分が趣味でつくったコラージュ作品の額縁として使うために集めているのだと教えてくれた。その発想に心を動かされたと同時に、机に置かれたものから、その人のことが見えてくる面白さを知った。それから先生の机が好きになり、時々、机の上に置かれたものをスケッチブックに描いていた。

「先生の机が好きだった」という気持ちを、長い間忘れていた。心を動かされた記憶は、いつの間にか遠ざかってしまう。だから、日記を書く。先生の机が、その人を映していたように、日記もまた、その日の自分を映してくれる。自分が何を面白いと思い、何を特別だと感じたのかを書き留めること。未来の自分が、今日の自分にもう一度出会えるよう、今夜も日記をつける。





小高梨乃 | Rino Kotaka

星しんぶんを制作する有限会社3KGのデザイナー。札幌市立大学デザイン学部15期生。自主制作として、不定期でフリーペーパー『集合体』を発行。アナキズムの視点から生活を見つめ、文章や散文を執筆している。

夜の 本と 音楽と 映画



夜撫でるメノウ

Ayase

この曲は失恋の夜を書いた曲です。ゆっくりなテンポで優しい歌詞だけれど、最後、曲がまだまだ続きそうなのにブツンと中途半端に終わってしまうのが自分はまだ好きなのに強制的に恋が終わってしまった、と感じられます。是非失恋した時に聞いてみてください。(3B 宮原美羽)



キャプテン

ちばあきお

野球弱小高に突如現れた転校生谷口君。野球の名門から来た彼はチームメイトから過度に期待されてしまうが、実は二軍の補欠。その期待に応えるために毎晩、神社の前で父親特製のマシンで暗闇&至近距離で取る練習をしていた。「根性」溢れる谷口君の人生を見逃すな！(小山翔太郎)



tokyo feat. 鈴木海子,Skaai

yonawo

「都会の喧騒や孤独、夢を追いかけることの難しさ、そしてそれらに翻弄されながらも前へ進もうとする若者の姿を表現」しており、疲れてしまった時、落ち込んでしまった時に聴くと明日への勇気を貰えます。毎日聴くくらい中毒性のある夜に聴いたらチルすぎる曲です。(2B 三村心愛)



銀河鉄道の夜

銀杏 BOYZ

夜に高速道路を走っている時に、窓に打ちつける雨の音が好きだ。真っ暗な中で不規則に打ちつける雨音を聞くと安心する。この曲は飛び立ってしまいたい気持ちを持ちながら「ハロー今君に素晴らしい世界が見えますか」と呼びかける。あなたを想いながら。(高濱梨紗)



PERFECT BLUE

今敏

女優への転身を目指す元アイドル未麻が、現実と虚像の境界に迷い込む。夜はただ時間を表すだけでなく、人の心の中を映し出す鏡のようなものだと感じました。特に未麻の、現実と虚像の境界が曖昧になる夜の描写からは、孤独や不安が強く伝わってきます。(3A 和泉日菜子)



アルクアラウンド

サカナクション

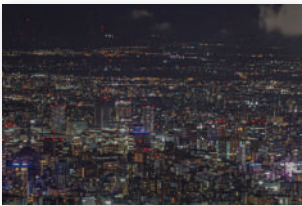
この曲の良いところは、程よい電子音と覚えやすい音色で、アップテンポで乗りやすく歩きながら聴くのに最適な曲。mvを見るとなんととても特徴的で印象に残るワンカット映像が素晴らしく最後まで見るとループするようになっていて、曲もmvも力を入れていると思った。(2B 近藤涼音)



Idioteque アルバム「KID A」より

Radio Head

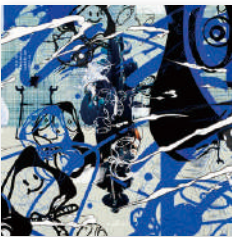
「KID A」を聴いた時の裏切られたようなショックが、続いて出た「Amnesiac」の後にもう一度聴くことによって感動に変わり、何かを理解できた感覚を思い出す。夜の、どうしようもない不安。世界と自分との関係。何が世界をこんなふうにして、守られるべきは誰なのか。(本間涼子)



藻岩山からの夜景

札幌市

札幌にある藻岩山山頂の展望台から眺める夜景。日本新三大夜景にも選ばれたことがあり、とてもきれいです。展望台へは自力で山を登って行くこともできて、トレーニングにも最適です。自力で登ってから眺める夜景は感動が増します。是非行ってみてください。(成田健太郎)



未来になれなかったあの夜に

amazarashi

夜道を歩いていたり夜の暗闇を眺めたりしていると失敗や挫折を思い出して必要以上に落ち込んでくじけそうになることもあります。僕にもそういう夜が時々ありますが、この曲を聴いていると元気をもらえます。自分がダメダメなときに心に刺さる曲です。(福田綱基)



クリスマスのまえのばん

(ぶたいしかけえほん)

クレメント・C・ムーア 詩 / トム・バトリック 絵 / 上野和子 訳

開いた瞬間、舞台が現れたような立体感にビックリ！100年以上前から世界中で愛されているクリスマスの詩を元に、華やかで美しい世界が飛び出す「仕掛け絵本」。サンタを待つ静かな夜の空気、澄んだ冬空を飛ぶトナカイ達の白い息。クリスマス・イヴが待ち遠しくなる！(鈴木恭子)



よろろ

ゆくえわと

この曲の特に私に響いたところは歌詞で1番の歌詞に「不安な言葉は君から言って」という歌詞があるのですがその後の歌詞がすごく私の背中を押してくれている気がして不安な時はその言葉を思い出します。私をずっと支えてくれた曲、ぜひ聴いてみてください。(1A 佐藤由季)



窓

松山千春

北海道を代表するシンガーソングライター、松山千春の曲。古い曲ながら、夜の静けさの中で自分と向き合う繊細な心情を描いた一曲。無力感と強い愛情、わずかな希望が共感を呼び起こします。(佐藤智彰)



まっくら：女坑夫からの聞き書き

森崎和江

日の昇る前に炭鉱にさがり、深夜に地上に戻る。女坑夫達は昼の光を浴びることなく、常に夜のよう。真っ暗闇の中で、とにかく働いた。今の私たちにはびっくりするような価値観の連続なので、ぜひ衝撃を受けてほしい。(小野花菜子)



Wasted Nights

ONE OK ROCK

この音楽のタイトルが直球で「無駄な夜はもういらない」という意味がある。夜を無駄にせず今を全力で生きるという未来に向かう力強いメッセージが込められている音楽です。(1B 丸山歩夢)



夜のピクニック

恩田陸

ある高校の80km夜通し歩く「歩行祭」という行事が舞台の青春小説です。本屋大賞受賞で、映画化もされています。北星余市にも「強歩」があります。この小説を読んで70kmに挑戦するのもいいかもしれません。(塚原治)







LIFESTYLE



焼き菓子と雑貨の隠れ家カフェ
Kurumi no ki
クルミノキ
文・写真 小野澤慶弘

ちょっと見つけづらい。しかし見つけることができるとなにか嬉しい。季節ごとに表情を変えながら余市の街を彩るシリバ岬を小さな丘の上から眺めることができる焼き菓子と雑貨の隠れ家カフェ「Kurumi no ki」。



濃い茶色でまとめられた落ち着いた色合いの建物の中に一歩踏み入ると、天井一面にとりく狭しと吊るされたドライフラワーと散りばめられた小さな雑貨に包まれる。内装そのものが店主の竹内さんの手作りのものが多

く、竹内さんの柔らかい雰囲気そのままお店の暖かい空気となったようである。

余市町出身の竹内さんは高校を卒業後、製菓店に勤務したが体調を崩してしまい退職、その後は国内のあっちこっちでアルバイトをしていたという。その経験から故郷の余市の良いところをもっと多くの方に知ってもらいたいと「Kurumi no ki」の開店に想いが至った。店内に並ぶ焼き菓子は全て店主の竹内さんが手作りされたもの、食材には自家栽培された野菜、地域で採れたものをできるだけ取り入れ、常連さんに楽しんでもらえるよう季節ごとに様々な種類の焼き菓子を取り揃えている。また、店内で提供されるコーヒーは竹内さんの高校時代の同級生がこだわりの焙煎で仕上げた豆を使用し一杯づつゆっくり落としてくれる。

ちょっと時間の取れる時に、暖かく静かな空間で気持ちを整えるcafé timeはいかがだろうか？

MENU

マフィン各種	¥420
アメリカンチョコチップクッキー	¥300
余市産はちみつマドレーヌ	¥300
オリジナルブレンドコーヒー	¥500
メニューは一部抜粋	

LIFESTYLE

“こどもまんなか”を下支えする、“親もまんなか”、“こどももおとなもまんなか”

「思春期の子をもつ親のおしゃべり会」からの、
親カフェネットワークへ

文・写真 梁井利恵子

今から約10年前のこと、北星余市の学校存続問題が盛り上がった当時、北星余市の現役・卒業生の保護者たちが集っているうちに地元で親同士ホッペで話せる場を作ろうとなり、2016年夏に「思春期の子をもつ親のおしゃべり会」(思春期おしゃべり会)が大阪で発足された。

相談員として専門家がいなくても、北星余市にはいろんなタイプの子の親が勢ぞろいし、親という専門家が揃っている！おしゃべり会では、様々な経験をもつ親同士で忌憚なく



2026年5月トークイベント(大阪府豊中市にて)

話せる安堵感と癒され感の輪が広がる。子どものことを話しているうちに自らの課題に気づいたり、北星余市に転入学する生徒もあり、別の道を見つけていく親子もあり。北星余市の存続も大事だけれど、学校に悩む親子が思春期おしゃべり会に参加して、少しずつ変わっていくことのミラクルを私たちは目の当たりにしていた。以降、活動の輪は東京、東海、北海道……と広がっていったけれど、コロナ禍を経て一旦休止し、3年前から大阪で再開している。

片や不登校の小中学生数がコロナ禍以降急増し、全国で35万人になったと報じられて久しく、ここ2～3年で私の地元の豊中市でも“親カフェ”(主に不登校系の親の会)が増えてきた。そこで、私たち思春期おしゃべり会が呼びかけ人となり、市内で同じような活動をする複数団体でネットワークを組むことにした。こうして2025年2月、「親カフェネットワークCoco(ここ)」が立ち上がった。

同年5月に、豊中市の公施設にてCoco主催での初のイベント“親カフェ 親応援団体等 大集合!”を開催することになり、なんととはるばる北海道から大阪の会場に、北星余市にブース出展をしてもらった。今年は市の南北にある複合施設の公民学連携事業として、3月と5月に昨年の継続イベント、テーマを『不登校』について話そう聴こう考えよう』として開催した。

特に5月のイベントでは、様々な立場で『不登校』の子どもたちに関わっている5人の方に



REPORT

放送局の仕事

文 佐久本至 写真 辻田美穂子

放送局の仕事内容は、毎週月曜の一時間目にある全校礼拝の準備、毎日の放送礼拝、対面式、始業式、終業式、スポーツ大会の開会式などの音響、照明の面での仕事をしていました。学校行事は、生徒会と連携してやっていました。

全ての仕事の中で、その場での細かいミスなどはありませんでしたが、大きなミスなくやり遂げることが出来ました。それ以外だと放送局の3年生が、1・2年生に音響や照明の機材の扱い方を教えるということや、音響、照明などの機材の動画でのマニュアルを作りました。

随所で3年生の中の意見の食い違いがありましたが、大きな問題に発展することなく済みました。回数は少なかったですが、映画企画をすることも出来ました。今後の反省点としては、毎日の放送礼拝を始める時間が遅いことや、音量が小さいことがあったので、そういったところの細かいミスを直していき、その他の行事でも、今までの行事であった細かいミスを無くしていく他、臨機応変に対応できるようにしていき、任された仕事を完璧にこなせるようにしていきます。今まで数の少なかった、自分たちでやる映画企画の回数を増やしていきたいと思っています。

そのためには、これまで遅く、全くできていなかった放送局内部での報告連絡相談を増やしていきます。そうして細かいミスも減らし、人と人の食い違いもなくして少しでも完璧に近づけていきます。一つ一つの仕事を大切にし、自分たちにできる最大限のことをやっていきます。これから3年生が仕事をする大きな学校行事は、学校祭のみとなっているので、最後まで自分たちの仕事を全うし、1・2年生に何かを残せるようにしていきたいです。1・2年生は、一人一人が任された仕事を一人で完璧にこなせるようにしていきます。今の放送局は、人数は多く無いですが、一人一人が力を合わせて全ての仕事を全うしていきます。



登壇していただいたトークイベントが満場の大盛況だった。その登壇者に、かつて北星余市の教員だったとーるちゃんこと田中亨先生も、大学の先生として参加くださったのは感無量だった。

『不登校』って、学校って、一体なんなんだ?! 私たちが北星余市と出会う前も後も、ずっと考え続け、問い続けてきたテーマ。今回のイベントで、親カフェネットワークCocoのメンバーはこのテーマをちゃんと取り上げたかった。親カフェ活動の中だけでなく、みんなで話し合い聴き合い考える場をつくりたかった。

私は北星余市に出逢った多くのこどもたちが成長する姿を見るにつけ、『不登校』を自分ごとの問題から、社会的な問題へ考えられるようになった気がしている。『不登校』を考える時“こどもまんなか”で考えると、実は“親もまんなか”で、つまり“こどももおとなもまんなか”で考え、誰もが尊重される社会にしなければならぬと気づいていくからだ。

苦肉の策で北星余市の元PTAお仲間と始めた親カフェ活動から10年を経て、『不登校』を社会全体で考える輪を広げていく活動へ。多方面に心強いお仲間も徐々に増え始めている。「できる人ができることをできる時に」北星余市PTA精神で、みんなで少しずつこの輪を広げていけたらいいなと願っている。



梁井利恵子 | Rieko Yanai

50期卒業生保護者、大阪府豊中市在住。中東で子育てしつつ8年暮らす間に同時多発テロを経て、人生観が変わり帰国。帰国先の友人たちとNPO法人の立ち上げに関わり、市の委託こどもの居場所ネットワーク事業に関わる傍ら、ワイフワークとして主に不登校等の親のおしゃべり会の運営をしている。

カメラマン美穂子の 北星余市 レポート

総合講座

自然環境と野外活動

毎週金曜日の2時間、勉強とは少し離れて、自分の世界を広げるための時間が北星余市には設けられています。それが「総合講座」。今回紹介するのは、国語の先生でありながら理科が大好きな塚原先生による「自然環境と野外活動」（通称「塚原探検隊」）。自然豊かな余市の中で、遊んで、知って、自然を体感する講座です。



「やってみたい」に
一歩近づく

この日、生徒たちが訪れたのは、余市の景勝地「白岩」。ダイナミックな岩場と、晴れた日には透き通る青い海が広がる場所です。メインの活動はカニ釣り。針金にフジツボや貝をつけて岩陰に差し込むと、においにつられてカニがぞろぞろ。生徒たちは夢中になって釣っていました。

でも白岩でできることはそれだけではありません。岩場にただ座って海の向こうを見つめる生徒の姿も。風や波の音に身をゆだねて過ごす時間も、自然の中では立派な活動です。



貝を差し込むと、ぞくぞくとカニや魚が集まってきます。上手に釣るには少しコツが必要。塚原先生に教えてもらいながら、たくさんのカニを釣り上げました。



つかまえたアメフラシ。少し刺激を加えると紫色の液体を出します。



まるでロッククライマーのように岩をよじ登り、岩の上で大ジャンプ！

浅

瀬ではアメフラシを発見。先生に「刺激すると紫色の液体を出すよ」と教わり、そっと触ってみると、本当に鮮やかな紫が水中に広がり、歓声が上がりました。「この白い粉は海水の塩分、つまり塩だよ」と教わると、「舐めてみたい！」という声も。勢いよく岩によじ登ろうと挑んだ生徒は、いざ登り始めると手足のかかりをとて慎重に探りながら、しっかり安全を確認していました。その姿はロッククライマーそのもの！堤防から岩に飛び移れるか挑戦する生徒は、失敗して靴がすこし濡れてしまいましたが、どれもやってみないとわからないことばかり。自分の中の「できそう」と「できない」の境界を見極める経験は、何よりの学びです。

先生は必要なときだけ声をかけ、あとはそっと見守ってくれます。「やってみたい」「やってみようかな」と思った瞬間、その気持ちを受け止め、後押ししてくれる。人が成長するために必要な、大切な学びの場がここにはあります。



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪から移住した写真家。道南の厚沢部町在住。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生がかわったひとりです。パンフレットなど学校の広報物の写真を撮っているの、見かけたら「みほこー！」と声をかけてください！

REPORT

弁論大会
 課題の部「文化」 / 最優秀賞

3年A組 花房 興

海外旅行をすると、その国のことがわかる。海外に住むと、その国のことがもっとわかる。それって、本当でしょうか？

私は父の仕事の関係でさまざまな国で暮らしました。最初はベトナム。その次はインド。デリー近郊にある日本人の多い町、グルガオン。高い建物が多く、私が住んでいた建物も30階建てでした。エレベーターが2基しかなく帰るのが大変でした。インドはPM2.5が多く、冬には空気の汚さが、スモッグとして目で見えました。

学校は、ブリティッシュインターナショナルスクールに通いました。スケート場や射撃場がありました。私はインド人の子と韓国人の子と仲良くなりました。食堂があり、バイキング方式でした。ただ私には合わなくて、弁当を持って行っていました。友達の韓国人は自家製のキムチを持ってきていました。

担任からの日本人いじめが酷く、日本人学校へ転校することになりました。不安があったので、日本の学校に慣れるため、千葉の小学校に2週間だけ通うことになりました。初めて給食というシステムを知りました。給食は凄く美味しく、しかもおかわりが可能で、感動しました。雑巾掛けと体育座りができませんでした。インドの日本人学校に転校すると、楽しみにしていた給食はなく、母が朝4時に起きて作ってくれたお弁当でした。グラウンドの半分は森でした。たまに猿が入ってくると、「みんな逃げて」と放送がかかりました。

次に行った中国の大連では、食事に困ることは、ありませんでした。住んでいる建物の周りには和洋中全てのレストランがありました。大連は昔日本が植民地支配をしていたので、日本語を話せる人もたくさんいました。私たちがお客さんということや、金払いが良いこともあってか、悪意を向けられたことはありませんでした。

日本人コミュニティの中では、中学入学のタイミングで帰国する子も多く、私も日本へ帰ることになりました。日本に帰った日は、家で肉じゃがと厚揚げを食べ、母と一緒に泣きました。

ここまで振り返って、思ったことは、自分が住んでいた国のことを全然知らないということです。せっかく海外に住む機会があったのに、住んだことがない人でも知っているような有名な事しか知らないことに、恥ずかしさや悔しさがあります。今になって私は、地元の人たちと関わらないと気付けない、文化や考え方などに、興味をもつようになりました。

例えばインドのカースト制。私はこのカースト制を北星に来てから知りました。カースト制とはインドに根強くある身分制度のことです。元々ヒンドゥー教の宗教的教義により、司祭であるバラモン、王族や武士であるクシャトリア、商人や農民であるヴァイシャ、労働者や隷属民であるシュードラ、を基本に、何百ものカーストに分かれています。さらにその下にはカーストからも外され、人以下の存在とされているダリットがいます。1950年にカーストによる差別は憲法で禁止されましたが、今でもカーストに基づく差別やダリットに対する差別は続いています。カーストは、結婚や食事、職業と、人々の生活の隅々に入り込んでいるのです。100年近く続いたイギリスの植民地支配の間に、カースト制はさらに強固になったといわれています。

私は自分がインドにいた時に、このカースト制をなぜ感じなかったのかと不思議に思いました。私はどの国でも、特殊な日本人コミュニティの中で生活していました。私は高級エリアにある、セキュリティのしっかりした高級マンションやホテルに住んでいました。外に一人で出ることもダメだったから、地元の人と関わる機会がありませんでした。さらに友達は日本人が多く、外国人の友達もいたけど、インターナショナルスクールを辞めて日本人学校に通うようになってからは、段々関わりが減っていきました。同じマンションに地元の人はいいましたが、普通の人ではなく、お金持ちの人でした。インドでは、カーストの高い人だけがそこに住んでいました。またインド人もカーストについて話すことはありませんでした。カーストの低い人とは直接関わる機会がありませんでした。

しかし父は違いました。カーストを会社で感じていたらしいのです。カーストが低い人はお茶くみや掃除しかさせてもらえず、名刺もなかったそうです。ということで私は、もう一度インドへ行く必要が、ありそうです。

QUESTION

なりた先生に
 きいてみよう



Q
 心に残っている夜の時間は？

自分は夜によく山に登ります。その中でも日高山脈、標高1500mで見た星空が今でも心に残っています。

もともと星を眺めることが好きで、その星空をみんなにも見てもらうためにカメラをもって北海道の星空を撮って回っている時期がありました。余市で撮ったり、支笏湖で撮ったり、ニセコで撮ったり。ただ、どんな山奥に行っても街の明かりが邪魔をしてしまい、星の美しさが半減してしまうと感じていました。そこで、街の明かりが届かない山の上で星空を撮ろうと思い、夜の山に登りました。

当時は3月の厳冬期、夜中の1時に登山口に集合して登山を開始しました。当然真っ暗で何も見えないのでヘッドライトと、冬山なのでスノーシューという雪に埋まらないようにするものを足に付けての登山となります。登りながら空を見渡せばきれいな星空が見えます。それだけでも満足ですが、上まで登ればもっといい景色が見えるとワクワクしながら登りました。途中道幅が狭くな



り、少しバランスを崩すと滑落しそうな道を進み頂上を目指しました。

そしてまだあたりは真っ暗の中、頂上に着きました。そして見上げた星空はいまだに忘れません。もちろん街明かりも届かず、星空を邪魔するものは何一つない。とにかくきれいだっただのを覚えています。そのまま山頂に3時間近く滞在して、朝日を迎えました。朝日に照らされた日高山脈の山々も星空に負けないくらいきれいでした。おそらく山に登らなくてもきれいな星空は見れると思います。でも自分で山に登って苦労した先にあった景色だからこそ、より感動が増した気がします。

その後も札幌の夜景を見るために藻岩山に自力で登ったり、山にテントを持って行き、山の上に泊まったりと大好きな山を夜も楽しんでいます。夜の時間は家でまったりとテレビを見たりゲームをしたりして過ごすのもいいですが、夜にしか味わえない感動や喜びもあると思います。だから、これからも夜の旅は続けます。

INFORMATION

全国で学校説明・相談会を
 開催します。

本校の教育についての説明会のあと、個別相談を実施しています。PTA・OBと直接お話することもできます。お気軽にいらしてください。開催時間：13:30～17:00

北海道地区

8月22日	土	札幌市	かでの2・7	940会議室
10月10日	土	旭川市	旭川ときわ市民ホール	306号室
10月11日	日	北見市	北見市民会館	5号室
10月12日	月	帯広市	帯広市民文化ホール	第1会議室
10月17日	土	函館市	サン・リフレ函館	
10月18日	日	札幌市	かでの2・7	540会議室

東北地区

8月10日	月	宮城県	仙都会館	会議室3F
11月8日	日	宮城県	仙都会館	会議室3F

関東地区

8月2日	日	東京都	きゅりあん	第1特別講習室
8月8日	土	長野県	JA 長野県ビル	12階G会議室
8月9日	日	埼玉県	大宮ソニックシティ	501,502号室
10月12日	月	東京都	きゅりあん	第4講習室
11月7日	土	茨城県	co-en meeting01.02	(予定)
2月23日	火	東京都	きゅりあん	第1特別講習室

中部・北陸・関西地区

8月1日	土	大阪府	ドーンセンター	セミナー室2
8月7日	金	石川県	金沢市文化ホール	第5会議室
10月4日	日	京都府	京都経済センター	4-C
10月10日	土	大阪府	ドーンセンター	セミナー室2
10月11日	日	愛知県	ウインクあいち	1306会議室
2月20日	土	大阪府	ドーンセンター	中会議室2 (予定)
2月21日	日	愛知県	ウインクあいち	1306会議室

中国・四国・九州地区

10月3日	土	福岡県	アクロス福岡	501号室
-------	---	-----	--------	-------

COLUMN



表紙写真の
 じぶみ寒

よく一緒にいるのを見かける、同じクラスの男子3人組。仲の良い生徒同士は同じ寮ということが多いけれど、彼らは寮も別。きっかけは「同じクラスだったから」。それだけ？と思うけれど、「なんかずっと話してて、楽しい」らしい。距離も力も入りすぎない、自然と続く関係。なんとなくでも、楽しい時間。「戻りたい時間」ってこういうことを言うのかもしれない。



編集後記

昨年、発行出来ずにいた星しんぶんがやっと発行出来ました。寄稿していただいた皆さん、申し訳ありませんでした。子どもが生まれてから夜という時間は慌ただしく過ぎていくばかり。ゆっくりしたいと思う時もあるけれど、いつか戻りたいと思う時間になるのかな～。(高崎麻美)

1年ぶりの星しんぶん。今号から新コーナー「北星余市レポート」も加わり、北星余市のことをもっと楽しくお伝えできる内容になったと思います。私の夜の習慣はストレッチ。デスクワークでカチコチになった体をほぐし、1日の疲れをリセットしています。(瀬尾涼音)

hoshiii

ほし
星しんぶん

発行日：2026年7月21日(火)
発行元：北星学園余市高等学校

北星学園余市高等学校

046-0003
北海道余市郡余市町黒川町19丁目2-1
Tel. 0135-23-2165 (職員室)
Fax. 0135-22-6097 (職員室)

www.hokusei-y-h.ed.jp



日々の学校生活の様子を
更新しています
ブログ
北星余市は、いま!



動画で観る北星余市
北星余市
YouTubeチャンネル



卒業生がいかに
生きているか
ウェブマガジン
STAR RECORD

